

戦 後 の 京 浜 馬 城 会 ^(※1)高普第 1 回卒 渡 部 行 ^(※2)

私の手元に昭和 27 年 10 月発行の「京浜馬城会員名簿」がある。手帳タイプのガリ版刷り、わずか 32 ページである。成田儀六 ^(※3) 馬城会会長は、はしがきのなかで「戦中戦後の混乱も今春の講和条約の成立と共にようやく平静に復しつつあるので、馬城会もその機能を復活すべき秋だと考え、微力ながら京浜馬城会員名簿の整理を企て、手元にあり合せの資料で一応まとめてみました。不備で誤謬も多い事と思いますが、今後、会員各位のご協力により漸次補修していけば望外の幸せです」と書いている。

第 1 ページ最初の会員は、第 1 回卒の折笠病院長の折笠晴秀 ^(※4) 氏。14 回の桑原光雄 ^(※5)、成田儀六、17 回の鈴木直人 ^(※6) 代議士、25 回の斎藤邦吉 ^(※7) 氏は労働省職業安定局長として記載されている。最後は昭和 27 年、高校 4 回卒、全体で 220 人ほどである。

2 回目の名簿は、4 年後の昭和 31 年 10 月に刊行された。ザラ紙にガリ版刷りだが、ノートほどの大きさになり、25 ページ、会員は 550 人ほどに増えている。最後は高校 7 回卒である。この名簿は最初に「京浜馬城会会則」があり、第 1 条は「本会は京浜馬城会と称し、これを馬城会京浜支部とする」とあり、会費は年額 50 円だった。

京浜馬城会は戦後の昭和 24 年頃から活動を開始していたと思う。支部会長は成田儀六氏、京浜支部長は鈴木直人氏だった。総会召集の宛名書きなどは、板橋区常盤台の鈴木邸に学生有志が集まって書いた。「文京区丸山町の成田邸にもよく押しかけて、先輩にご馳走になった。」

総会は原則として春秋の 2 回、会場は安上りの後樂園・涵徳亭だった。会費は 300 円、学生 150 円。折詰弁当に酒 1 合、それに芝浦製糖専務（後社長）の大波信夫 ^(※8) 氏からラム酒の差入れがあった。多い時は 180 人も出席、しかも過半数は学生なのでいつも赤字だったが、先輩が穴埋めしてくれた。当時は就職難で先輩は先輩を頼りにし、先輩はよく面倒をみてくれた。昨今の総会には学生の出席が皆無、若い会員の参加も少なく世の中の変化を痛感させられる。

鈴木支部長が昭和 32 年 9 月に急逝され、斎藤邦吉氏が新支部長に就任した。事務局は労働省関係者中心になったため、活動はしばらくの間やや停滞した。

再び活発になったのは、荒川利男 ^(※9) 氏が日刊工業新聞社の東京本社勤務になってからである。昭和 48 年 10 月 15 日、上野精養軒に 200 人近い会員が出席して再建総会が開かれた。新規約を決め、支部長に斎藤氏、副支部長に荒川氏、そして各学年別に理事が専任された。年会費は 1000 円だった。

新執行部はまず、会員名簿の作成に入り、新会員は 850 人に増えた。しかも製作費は有志会員の協賛広告でまかない無料で配付できた。つぎに馬城会京浜支部報創刊号が昭和 50 年 5 月に創刊された。タブロイド版 4 ページで会員有志の協賛広告も掲載した。

3 年毎の会員名簿の発行による会員動静の掌握、毎年支部報発行による母校や会員間の交流、

年1回の総会、2回の理事会開催も必ず実行された。また会費の納入と協賛広告による支部財政の確立などは、すべて荒川副支部長の主導により実現したのである。斎藤支部長は事務局に「すべておまかせ」と、信頼され運営に口出しされなかった。

これらの行事と活動は、その後ずっと馬城会京浜支部に継承されている。現在、会員は約2000人だが、学生、若い会員を中心に所在不明分を合せると3000人を超えるだろう。

(※1) 『相中相高百年史』 〈1998(平成10)年7月6日発行〉「思い出の記」より。

(※2) 飯豊出身。昭和24(1949)年卒。明治大学政経学部。元産経新聞編集委員・経済評論家。

馬城かわら版 第102号「あゝ紅の血は燃ゆる」。

馬城かわら版 第119号「困窮、混迷、大改革の六年間 進学は最高の中47回・高1回卒」。

(※3) 青森県出身。相中第14回、大正5(1916)年卒。東大(法)。

第4代馬城会長 昭和27(1952)年～昭和33年。

(※4) 福浦出身。相中第1回、明治36(1903)年卒。卒業生総代答辞。東大(医)。秩父宮の侍医。

初代馬城会会長、昭和14(1939)年～昭和24年。

馬城会報第52号(令和5(2023)年発行)に紹介記事。

(※5) 中村出身。相中第14回、大正5(1916)年卒。早大。

第5代馬城会長 昭和33(1958)年～昭和45年。

(※6) 磯部出身。相中第17回、大正8(1919)年卒。東大(法)。

(※7) 中村出身。相中第25回、昭和2(1927)年卒。東大(法)。

馬城かわら版第208号「常に平和と自由・平等の精神を保持し、正義を貫こう」

(※8) 旧姓 田村。信夫郡出身。相中第18回、大正9(1920)年卒。外語。

(※9) 大野出身。相中第26回、昭和3(1928)年卒。師範。

(転記&※脚注 村山)